

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02226

研究課題名（和文）中国の鉄鋼・石炭・電力産業における過剰能力の実証研究：市場競争の質の把握に向けて

研究課題名（英文）Empirical study of excess capacity in iron and steel, coal and power generation industry in China

研究代表者

川端 望（KAWABATA, Nozomu）

東北大学・経済学研究科・教授

研究者番号：20244650

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国における過剰能力の発生、存続、削減のダイナミクスを、石炭産業と鉄鋼産業を主要事例として分析し、以下のことを明らかにした。第一に、過剰能力の発生について、国有企業におけるソフトな予算制約と中小民营企业の機会主義的な参入行動の双方が作用していることを実証した。第二に、政府による過剰能力削減政策は、能力を量的に削減させて需要と均衡させる上ではめざましい成果を上げた。第三に、強力な介入による過剰能力削減が、市場経済の質を向上させているかどうかについては、産業分野により異なる結果を得た。第四に、過剰能力削減政策は、地域にとって経済開発戦略の見直しを迫るものであることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は産業組織の詳細な事実を分析し、中国の市場経済化の量的到達点と質的特徴についての学術的認識を進化させた。中国産業における過剰能力のダイナミクスの解明により、中国が市場経済としてどれほど成熟しているのか、政府の産業政策が、市場、企業、政府の関係を改善し、「市場の失敗」と「政府の失敗」を縮小させることに貢献しているのかを明らかにした。この成果は、企業経営、通商政策、外交等の場で中国産業に接する際の基準を豊富化し、社会の多方面に貢献するものでもある。

研究成果の概要（英文）：This study analyzed the dynamics of the generation, persistence and reduction of excess capacity in China, treating coal and steel industries as the object of case. There are four major findings. First, regarding the generation of excessive capacity, soft budget constraints in state-owned enterprises, especially subsidies for salvation, and opportunistic entry behavior of small and medium private enterprises were both effective. Second, the government's excess capacity reduction policy has produced remarkable results in quantitatively reducing capacity and balancing it with demand. Third, the policy's qualitative effect on the quality of the market economy was mixed industry by industry. Fourth, excess capacity reduction policy forced regional economies to upgrade the economic development strategy.

研究分野：産業発展論

キーワード：過剰能力 中国経済 国有企業 民营企业 鉄鋼業 石炭産業 市場競争の質

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当時、中国産業における過剰能力の存在は、中国政府自身の認識を含めて周知のこととなっていた。2015年、中国経済全般の減速とともに、石炭生産、鉄鋼生産、発電量はいずれも前年比で減少した。中国政府は2015年11月より「供給側改革」の実施を宣言し、2016年1-3月には、鉄鋼と石炭を主要な切り口にした対策を示した。そこでは、粗鋼生産能力1-1.5億トン/年、石炭生産能力8億トン/年を削減することがうたわれた。これにともない、数十万から100万人の雇用に影響が出ると言われていた。

中国における過剰能力については、通商摩擦など政策的必要に迫られてのレポートは多く発行されていたものの、学術研究での正面からの取り組みは不十分であった。マクロ経済における過剰資本蓄積は指摘されていたが(丸川・梶谷, 2015)個別産業のレベルでの具体的な分析は十分ではなかった。本研究はこの空白を埋めようとするものであった。

その際生かされるべきは、強力な政府介入がありながら、同時に、国有、郷鎮、民営企業が自由に企業者活動を行い競争しているという二面性を持つものとして把握する研究動向であった。この中で渡邊は、一方では、国有企業による独占や、多様な企業形態が併存する混合市場におけるソフトな予算制約に規定された低価格設定が、厚生を悪化させる可能性を指摘し(渡邊, 2016)、他方で民営を含む多くの企業が、技術・取引プラットフォームの活用により、固定費負担を回避しつつ低価格と旺盛な参入を行うしくみが存在していることを指摘してきた(渡邊, 2013)。そして川端と堀井は鉄鋼、石炭、電力産業の事例に即して、大型国有企業への集中を目指す政策と、旧式・小型設備の膨張・淘汰が織りなすダイナミクスについて実証的研究を進めてきた(川端・趙, 2014、堀井, 2013など)。この二面性を踏まえて、中国経済をトータルにとらえて行こうとする着眼を、過剰能力研究にも生かす必要があった。

2. 研究の目的

本研究は、改革の焦点である鉄鋼業、石炭産業について技術・市場、規制の具体的状況を踏まえて、過剰能力とこれに対処する政策についての分析を行うものであった。過剰能力が政府介入と企業者活動のいかなる帰結であり、またその処理政策が産業組織をどう変化させるかを明らかにすることで、中国における市場競争の質の現状と将来に対する示唆を引き出そうとした。なお、当初は電力産業も独立した事例としてとりあげる予定であったが、過剰能力問題という角度から石炭、鉄鋼と並置することは適当でないと判断して中止した。

具体的な課題は以下の通りであった。

(1) 産業別の過剰能力発生・存続・縮小のダイナミクス把握

1) 各産業における過剰能力の所在を実証的に明らかにすることをめざした。鉄鋼、石炭産業では、いずれも、大企業(国有)と中小企業(郷鎮、民営も多い)が併存して、双方とも生産能力に盛んな投資を行ってきた。そして、これらの産業の特徴は、国有企業改革が遅れる一方、中小企業が資源保全・環境保護が不十分な旧式・小型設備で参入を行ってきたことであった。このため、過剰能力が、政府の支援を受ける国有大企業を中心に存在するのか、社会的費用を回避しながら参入する傾向がある中小企業に存在するかは自明ではなく、探求すべき課題だった。

2) 過剰能力が滞留することの国内外への影響についての経済学的解明をめざした。鉄鋼業の場合は安値輸出による通商摩擦が生じており、そのことの正当性が問われている状況の評価する必要があった。また企業財務への影響、さらに、政府介入によって弱体化した企業が温存されると健全な企業が成長できないという逆選択が生じている可能性について、実証的に検証することを目的とした。

3) 各産業についての過剰能力解消政策を評価することをめざした。従来、中国政府は環境負荷の高い旧式・小型設備を技術・環境基準によって淘汰することを目指してきた。しかし、過去の淘汰政策によって機会主義的な小型企業の淘汰は進んでおり、すでにある程度現代的な生産能力自体が過剰になっている可能性があった。これらは技術・環境基準では行政的に淘汰することができない。設備現代化と市場経済化の深化の下で、過剰能力対策が直面する問題を分析した。

4) 過剰能力を解消して効率的で発展性のある産業組織が形成される展望について探求した。中国経済全体の改革とのかかわりで、過剰設備解消を市場経済化・競争促進の方向で進める道と、中央政府の権限を強化して行政的に進める道と、いずれに展望があるか問われていた。その際、鉄鋼業・石炭産業には大気汚染防止・地球温暖化防止政策と資源管理・省エネルギー政策という市場経済でも規制がかかるのが通例であることを踏まえた評価が必要であった。政府権限の強化と市場化・自由化の二者択一で問題が解決するとは考えられず、より分析的な評価が必要だった。

(2) 過剰能力解消と地域経済問題

当初は、過剰能力削減政策の労働者への影響を検証する予定であったが、研究開始直後の検討により、むしろ地域経済への影響という切り口で行うことが妥当と考えられ、そのように修正した。というのは、一方において過剰能力削減政策実施の時期にも中国の経済成長率が6%台を維

持し、雇用の量的縮小という形では問題が顕在化しなくなっていたからである。かわって注目されたのは、過剰能力削減によって中小規模企業が淘汰されることにより、地方政府の下での経済開発戦略として鉄鋼業が位置づけられてきた地域経済に甚大な影響を与えることであった。過剰能力削減政策には、地域の経済開発戦略を再編して、より集権化する作用があると予想され、その意義について検討することとした。

(3) 中国経済の特性を踏まえた競争の在り方のモデル化と競争の質の検証

国有企業が競争中立性を実現しているかどうかの検証をめざした。公有企業の予算制約および市場競争からの淘汰の基準が低いとき、市場でのシェアは企業が提供する財の質と価格のバランスではなく、どの程度資金調達を行い予算制約が緩められるのかによって決まる可能性がある。競争があるにもかかわらず提供される財の質が低下し、結果として設備や労働力が過剰になる可能性があった(Watanabe, 2015)。この議論の妥当性を担保するため、丁寧な実態調査で確認された企業の経営実態と政策・制度の運用状況を確認し、これらを反映したモデルを構築して、データによる実証を行うこととした。

3. 研究の方法

本研究の研究方法は、以下の二つを結合したものであった。

(1) 過剰能力に関わる企業・機関に対する実態調査の蓄積を主とし、産業資料、報道、統計分析によってこれを補完する定性的研究法。産業分析においては、対象となる産業の生産方法、製品、販売方法、用途などについて、また中国の経済制度についての詳細な知識が必要となる。産業と国・地域の個別的条件に産業組織と企業行動が大きく影響されているからである。しかも、一方では政治体制、他方では営業秘密という壁に阻まれ、公表資料だけでは政策事情、産業事情が十分につかめず、結果として適切な論点の設定を誤りかねない。そのため、過剰能力の実態、政策的争点の所在、公表資料の適切な解釈などをもとめて、政府機関、研究機関、大学、企業などへの訪問調査を繰り返す必要があった。中国で活動する研究者との交流も、資料入手、分析視角のアップグレードや政策的争点の確認にとって貴重であった。

(2) 過剰能力のダイナミクスを合理的に理解する理論モデルの構築および産業データによる検証という産業組織論の方法。膨大な事実の集積を、また不完全なところの多い公表統計を経済学処理可能なデータとして整理し、計量的な検証を可能とした。

両手法は研究成果全体に貢献したが、(1)の手法は、とくに政策の実施過程における市場・企業・政府間関係の解釈や、地域経済開発戦略のモデルの変容の構図を明らかにすることに役立ち、(2)の手法はとくに国有企業に対する補助金が競争中立性を歪めているかどうかを検証することに威力を発揮した。

研究実施過程では、現地調査を含めて、政策の実施状況に関する事実確認に力を注いだ。分析視点獲得のために、歴史的経験や他国の経験との対比にも力を注いだ。また、中国より研究協力者2名を招聘して、鉄鋼業の技術開発動向に関する情報の収集に努めるとともに、石炭産業を事例として過剰能力削減による技術水準の向上と企業集中について意見を交流した。研究成果は各自が発表した。またまとめた成果発表の場も設けた。まず、中間的なまとめの場として、2018年度中国経済経営学会全国大会において分科会「過剰能力削減政策は市場競争の質を向上させるか」を開催した。そして最終的な分析結果は、2019年9月に北京大学国家発展研究院で開催された「過剰能力、国有企業改革、競争中立性」に関する国際ワークショップで報告した。業界団体のリサーチへの協力や産業専門紙への執筆を通して、産業界への成果の普及も行った。

4. 研究成果

本研究では、以下のような結果を得た。

第一に、過剰能力の発生を大規模国有企業、中小規模民間企業の双方において確認した。国有鉄鋼企業においては、ソフトな予算制約、とくに救済的意味を持つ補助金が能力を温存させていた。赤字に陥った国有企業ほど、補助金による救済によって操業を継続しているという因果関係が計量分析によって明らかになった。また石炭産業においても国有企業が中小炭鉱を抱え込み続けていたことを確認できた。一方、鉄鋼業においては、機会主義的な大量参入を行った民間中小企業が、環境と資源保全面での社会的費用を負担しない結果として存続していたことを明らかにした。

第二に、政府による過剰能力削減政策は、能力を量的に削減させて需要と均衡させる上ではめざましい成果を上げていることを、鉄鋼、石炭の両産業において明らかにした。その際、政策的介入正当化の論理が、環境、安全、規模拡大の3つの角度から総合的になされており、とくに環境面での言説が、政策執行の梃子となっていた。

第三に、強力な介入による過剰能力削減が、市場経済の質を向上させているかどうかについては、分野による異なる結果が得られた。石炭産業ではおおむね肯定的であり、競争力ある企業への集中と合理的な技術選択が促進されていた。一方、鉄鋼産業では政策の執行過程で行政的裁量と交渉による決定という側面が肥大化し、そのことが新たな投資競争を誘発していた。また、補助金による国有企業の救済問題は解決していなかった。

第四に、過剰能力削減政策が地域における経済開発モデルを変容させる作用を持つことを解明した。武安市鉄鋼業の事例研究によれば、小規模設備淘汰策は、地方政府と小規模民間鉄鋼企

業の連携による経済開発を脅かす性質を持っていた。地方政府は、独自の「鉄鋼生産能力指標取引」制度によって過剰生産能力の削減と優良企業の存続の両立を図り、あわせて産業構造転換政策を推し進めていた。地域再生戦略の視点を持たない限り、全国一律の過剰能力処理は深刻な問題をもたらさしめることを明らかにできた。

<引用文献>

- 川端望・趙洋(2014)「中国鉄鋼業における省エネルギーとCO2排出削減対策」『アジア経済』55(1), 97-127。
- 堀井伸浩(2013)「エネルギー：低価格誘導政策の見直し」渡邊真理子編著『中国の産業はどのように発展してきたのか』勁草書房。
- 丸川知雄・梶谷懐(2015)『超大国・中国のゆくえ4』東京大学出版会。
- 渡邊真理子編(2013)『中国の産業はどのように発展してきたか』勁草書房。
- Watanabe, Mariko (2015). Identifying Competition Neutrality of SOEs in China, *RIETI Discussion Paper Series*, 15-E-134, 1-47.
- 渡邊真理子(2016)「国有企業と市場競争の質：体制移行の罨をもたらす制度と実態」加藤弘之・梶谷懐編『二重の罨を超えて進む中国型資本主義』ミネルヴァ書房。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 川端望	4. 巻 395
2. 論文標題 国際経済統合下におけるベトナム鉄鋼業の発展	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 TERG Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kawabata Nozomu	4. 巻 396
2. 論文標題 Development of the Vietnamese Iron and Steel Industry under International Economic Integration	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 TERG Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 堀井伸浩	4. 巻 11
2. 論文標題 急進化する大気汚染対策の光と陰	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 30-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Mariko Watanabe	4. 巻 5
2. 論文標題 A Contest of Payment Contracts: A Structural Approach on How Chinese Firms Coped with Default Risk of Trade Credit	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Man and the Economy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/me-2018-2010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端望	4. 巻 414
2. 論文標題 中国鉄鋼業の生産能力と能力削減実績の推計：公式発表の解釈と補正	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 TERG Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川端望	4. 巻 7
2. 論文標題 鋼鉄産業去産能中迪政府角色：20世紀末日本の経験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国投資	6. 最初と最後の頁 24-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀井伸浩	4. 巻 38
2. 論文標題 再エネ大国中国の台頭の背景 経済性向上を実現した制度設計	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nextcom	6. 最初と最後の頁 42-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊真理子	4. 巻 3-138
2. 論文標題 中国の市場経済の類型化と通商ルール -国有企業の競争歪曲性とデータ取引の事例-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フィナンシャル・レビュー	6. 最初と最後の頁 169-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Mariko Watanabe	4. 巻 20-E-014
2. 論文標題 Competitive Neutrality of State-owned Enterprises in China's Steel Industry: Causal Inference on the Impacts of Subsidies	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mariko Watanabe	4. 巻 -
2. 論文標題 Vertical or Horizontal Forclosure?: License Fee Contract and Anti Monopoly Decision in Competition of Smartphone Integrated Circuits Market of China 2011-2014	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川端望	4. 巻 395
2. 論文標題 国際経済統合下におけるベトナム鉄鋼業の発展	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 TERG Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nozomu Kawabata	4. 巻 396
2. 論文標題 Development of the Vietnamese Iron and Steel Industry under International Economic Integration	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 TERG Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀井伸浩	4. 巻 11
2. 論文標題 急進化する大気汚染対策の光と陰	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 30-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mariko Watanabe	4. 巻 43952
2. 論文標題 A Contest of Payment Contracts: A Structural Approach on How Chinese Firms Coped with Default Risk of Trade Credit	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Man and the Economy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/me-2018-2010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端望	4. 巻 371
2. 論文標題 日本鉄鋼業の過剰能力削減における政府の役割：1970-2000年代の経験	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 TERG Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川端望	4. 巻 17-J-066
2. 論文標題 ベトナム国有鉄鋼企業の衰退とリストラクチャリング	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Mariko, Kubo Kensuke, Kojima Michikazu	4. 巻 15
2. 論文標題 Refining estimates of air conditioning energy consumption in Asian countries: stock volume and energy efficiency labeling and standard	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Chinese Economic and Business Studies	6. 最初と最後の頁 407-421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1080/14765284.2017.1342058	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊真理子	4. 巻 17-J-058
2. 論文標題 中国鉄鋼産業における過剰生産能力問題と補助金：ソフトな予算制約の存在の検証	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 川端望・銀迪
2. 発表標題 中国鉄鋼業における過剰能力削減政策の進捗と展望：市場競争の質の観点から
3. 学会等名 中国経済経営学会2018年度全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀井伸浩
2. 発表標題 中国石炭産業における過剰生産能力解消 (去産能) 政策の成果とその評価
3. 学会等名 中国経済経営学会2018年度全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mariko Watanabe
2. 発表標題 Cash as a substitute of enforcement: A theory and evidence from China
3. 学会等名 European Association for Research in Industrial Economics 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nozomu Kawabata
2. 発表標題 Development of the Vietnamese Iron and Steel Industry under International Economic Integration
3. 学会等名 15th IFEAMA Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川端望・銀迪
2. 発表標題 中国鋼鐵産業去産能政策の進展及其展望：從市場競争の質量来看
3. 学会等名 “産能過剰，国企改革与競争中立” 国際研討会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井伸浩
2. 発表標題 中国煤炭産業“去産能”政策の成果及其評價
3. 学会等名 “産能過剰，国企改革与競争中立” 国際研討会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井伸浩
2. 発表標題 風力・太陽光発電世界一の中国 - その台頭の背景と最近の政策動向
3. 学会等名 環太平洋産業連関分析学会第30回全国大会公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井伸浩
2. 発表標題 可再生エネルギー大國的發展?程 - 中國太陽能和風電大躍進的背景 -
3. 学会等名 台湾国立政治大学社会科学学院中国産業的發展与政策國際研討会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀井伸浩
2. 発表標題 中國能源模式：國家VS 市場
3. 学会等名 台湾中央研究院人文社会科学研究中心中國經濟發展模式 學術研討會（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mariko Watanabe
2. 発表標題 How Motorcycle Giants Make Value and Profit ? :Estimating Competitive Positioning and Advantages with Flexible Product Space Model
3. 学会等名 Asian Pacific Conference of Industrial Organization 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊真理子
2. 発表標題 鋼鉄産業補貼与軟予算約以及低均衡價格
3. 学会等名 “ 産能過剰，国企改革与競争中立 ” 國際研討会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李捷生
2. 発表標題 武安市案例分析：『去産能』与地方經濟可持續發展的關係
3. 学会等名 “ 産能過剰，国企改革与競争中立 ” 國際研討会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川端望・銀迪
2. 発表標題 中国鉄鋼業における過剰能力削減政策の進捗と展望：市場競争の質の観点から
3. 学会等名 中国經濟經營学会2018年度全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀井伸浩
2. 発表標題 中国石炭産業における過剰生産能力解消（去産能）政策の成果とその評価
3. 学会等名 中国經濟經營学会2018年度全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mariko Watanabe
2. 発表標題 Cash as a substitute of enforcement: A theory and evidence from China
3. 学会等名 European Association for Research in Industrial Economics 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mariko Watanabe
2. 発表標題 How Motorcycle Giants Make Value and Profit ? :Estimating Competitive Positioning and Advantages with Flexible Product Space Model
3. 学会等名 European Association for Research in Industrial Economics 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊真理子
2. 発表標題 中国鉄鋼産業における過剰生産能力問題と補助金：ソフトな予算制約の存在の検証
3. 学会等名 2018年度アジア政経学会春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊真理子
2. 発表標題 中国鉄鋼業における過剰能力問題と国有企業のソフトな予算制約：何が問題か
3. 学会等名 中国経済経営学会2018年度全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川端望
2. 発表標題 日本鉄鋼業の過剰能力削減における政府の役割:1970-2000年代の経験
3. 学会等名 全国日本経済学会2017年学術研究会(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川端望
2. 発表標題 発展途上国鉄鋼業の技術選択におけるローカル・グローバルな諸要因: ベトナムの事例
3. 学会等名 日本鉄鋼協会第175回春季講演大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀井伸浩
2. 発表標題 中国の脱石炭化の要因に関する分析と今後の見通し
3. 学会等名 産業学会西部部会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mai Fujita, Machikita Tomohiro, Yuri Sato and Mariko Watanabe
2. 発表標題 Estimating Competitive Advantage and Positioning: Motorcycles Markets in Emerging Economies
3. 学会等名 Econometric Society Asian Meeting(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mai Fujita, Machikita Tomohiro, Yuri Sato and Mariko Watanabe
2. 発表標題 Estimating Competitive Advantage and Positioning: Motorcycles Markets in Emerging Economies
3. 学会等名 14th Conference of the Comparative Analysis of Enterprise Data Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mariko Watanabe
2. 発表標題 Qualcomm's License Fee Contract and Anti Monopoly Decision :Empirical Study of Smart-phone Market of China
3. 学会等名 中国經濟經營学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mariko Watanabe
2. 発表標題 Identifying Competitive Neutrality of SOEs in China
3. 学会等名 日本經濟学会 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mariko Watanabe
2. 発表標題 Identifying Competitive Neutrality of SOEs in China
3. 学会等名 Econometric Society China Meeting 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 未廣昭, 田島俊雄, 丸川知雄編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 357
3. 書名 中国・新興国ネクサス：新たな世界経済循環（堀井伸浩第6章中国の石炭輸入転換による国際市場秩序と新興国へのインパクト）	
1. 著者名 服部健治、湯浅健司 編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 218
3. 書名 中国創造大国への道（渡邊真理子第2章 最先端を走るインターネット企業 「斜陽」国有企業も並存する産業界 担当）	
1. 著者名 河村哲二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシア出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌（李捷生第5章 中国における発展モデルの転換と課題 担当）	
1. 著者名 中瀬哲史, 田口直樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 280
3. 書名 環境統合型生産システムと地域創生（李捷生第6章 鉄鋼企業による環境リサイクル事業の展開 担当）	

1. 著者名 上田修, 李捷生 (編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 983
3. 書名 日本鉄鋼業の経営・生産管理方式の形成と再編	

1. 著者名 植田 和弘, 國部 克彦, 島本実	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 350
3. 書名 グリーン・イノベーション (堀井伸浩第12章「中国式グリーン・イノベーション - 『儉約イノベーション』を実現する巨大市場と政府の戦略 - 」)	

1. 著者名 加茂具樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 一藝社	5. 総ページ数 168
3. 書名 「大国」としての中国 (渡邊真理子第4章「中国共産党と制度選択」, 第5章「共産党と民営企業家」)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀井 伸浩 (HORII Nobuhiro) (10450503)	九州大学・経済学研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	渡邊 真理子 (WATANABE Mariko) (10466063)	学習院大学・経済学部・教授 (32606)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	李 捷生 (Li Jie-Sheng) (50255634)	大阪市立大学・大学院経営学研究科・教授 (24402)	
研究 協力者	沈 峰満 (Shen Fengman)	東北大学・教授	中国の東北大学。
研究 協力者	徐 向陽 (Xu Xiangyang)	中国鉱業大学（北京）・教授	
研究 協力者	銀 迪 (YIN Di)	東北大学・大学院経済学研究科・博士課程在学	